

令和4年度 前期日程

「小論文（国際学部国際学科）」出題の意図

評価の基準としては、次の2点を重視する。

**① 著者の主張が十分に理解され、説明されているか。**

著者の主張は、以下のようにまとめられる。

現代の日本で生活している私たちの多くは、「友情」を親しさの問題として理解している。しかし、友情論の歴史において名を残している哲学者たちは、「友情」の問題を親しさや「親密性」の問題から区別し、公共の空間に関する政治的概念として捉えてきた。著者は、政治的な概念としての「友情」に関する関心が低下している中で、親しさの問題として理解される「友情」が却って日々その役割を増大させていることを問題視する。そのような「友情」に基づく典型的な活動が「ボランティア」である。著者は、ボランティアの活動が現在以上に社会の中で大きな比重を占めるようになれば、社会制度により深刻な脅威となると警告する。

著者は、「友情」や「友人」の捉え方と現代日本におけるボランティアの在り方の2点について論じている。著者の主張が全体的に理解されていることが望ましい。

**② 賛否の立場を明確にしたうえで、具体例を交えながら意見を述べているか。**

賛否自体は評価の対象とはせず、それが実体験に基づくものであるかどうかは問わない。また、賛否は、全体的主張、「友情」や「友人」の捉え方、現代日本におけるボランティアの在り方のいずれに対するものであっても構わない。

国際学部のアドミッション・ポリシーに照らして、多文化共生社会に関する問題について主体的に探究することに対する積極的な姿勢が示されていることが望ましい。

以上の点を記述する際に、指定された文字数以内で論理的かつ明確に記述する表現・表記能力も評価の対象とする。

（清水真木（2005）『友情を疑う 親しさという牢獄』中公新書による）